

オーガナイズドセッション (OS)

以下の5セッションが予定されています。

OSでの講演を希望される方は、各セッションのオーガナイザーに直接お問い合わせ下さい。

なお、OSの企画の申込は既に締め切っています。

前回までと同様に、セッションの様式、講演者等は、オーガナイザーが自由に構成することができます。

【OS-A】 Wetland のガスフラックス

主 催： JapanFlux

オーガナイザー：平野高司（北海道大学）・平田竜一（国立環境研究所）

連絡先： 平野高司 (hirano@env.agr.hokudai.ac.jp)

Wetland（湿地生態系）は生物多様性に富む生態系であり、高層湿原やマングローブ林、沼沢、干潟などの自然生態系だけでなく、水田やため池などの半自然生態系も含む。Wetland は豊富な水の存在に特徴づけられる生態系であり、地球規模での主要なメタン排出源として注目を集めている。またWetland には、土壤に膨大な量の有機質炭素（泥炭）を蓄えている生態系も多く、気候変化や環境攪乱にともなう土壤炭素の分解（CO₂ 放出）が深刻な環境問題として危惧されている。このOS は、様々なWetland における温室効果ガスの収支・循環に関して、主にフィールド観測に基づいた最新の知見を共有し、議論する場としたい。依頼講演の他に数件の講演を公募する予定である。

【OS-B】 農作物への放射性物質移行

オーガナイザー：多胡靖宏・新井竜司（環境科学技術研究所）

連絡先：多胡靖宏 (tako@ies.or.jp, 0175-71-1402)

東京電力福島第一原子力発電所の事故では、農作物の放射性核種による汚染が、生産物の出荷停止や風評被害を引き起こすとともに地域住民に不安を与え、問題となった。しかし、農作物への放射性核種の移行に関しては知見が少なく、核種に応じて、また、時期に応じて、移行を予測するためのデータが不足している。原子力関連施設の類型に応じて、また、このような過酷事故ばかりでなく異常放出、通常運転時の排出までを含めた様々な放出様態に対応して、大気又は土壤から農作物への放射性核種の移行に関する実験又は観測データを集積し、モデル等の予測手段を整備する必要がある。本OS では、農作物への放射性核種移行の理解に寄与する吸収・転流・再放出に関連した実験、観測又はモデリングに関する発表を募る。

【OS-C】 長期・広域の食料生産への環境・技術影響の検出・解析・予測

オーガナイザー：飯泉仁之直（農業環境変動研究センター）・増富祐司（茨城大学）

連絡先：飯泉仁之直（iizumit@affrc.go.jp）, 増富祐司（yuji.masutomi@gmail.com）

過去数10年間に於ける農耕地の物理環境と栽培技術の変化が食料生産に与えた影響を広域（subnational ~ global）で検出し、その知見に基づいて将来を見通す試みはより適切な農業投資や気候変動適応に資すると期待される。そこで、本OSでは、以下の3つのテーマについて近年の研究を紹介し、今後の研究の方向性と課題について議論する。講演の一部は公募する。1) 長期・広域での食料生産変動の解析に有効な手法（モデリング、衛星データ解析、メタ解析、農業技術史など）やデータセット。2) 食料の生産量（収量と播種面積・収穫面積）、品質、価格とそれらの変動要因。オゾンや病虫害、風水害といったこれまであまり扱われてこなかった生産変動要因についての発表も歓迎する。3) 収量格差（yield gap）についての要因解析。農業技術史を含めた解析を歓迎する。

【OS-D】 野外における植物の環境応答機能の分子レベルでの解明と農業気象学の貢献

オーガナイザー：小沢 聖（明治大学）・桑形恒男（農業環境変動研究センター）・長谷川利拡（東北農業研究センター）

連絡先：桑形恒男（kuwa@affrc.go.jp）

次世代シーケンサーなどの分析機器や情報処理技術の進歩により、野外においても大量のオミクスデータ（全遺伝子発現量やタンパク量、代謝産物など）を容易に取得し、解析できるようになった。これまでの分子生物学の研究は実験室で実施されてきたが、野外環境に対する植物の応答機能を分子レベルで解明し、実用植物の開発や生育環境の制御などに応用しようとする試みが始まっている。一方、農業気象学においては、計測や数理モデルなどを通して野外における植物の環境応答を解明し、作物の生産や管理などに応用する研究を実施してきた。本セッションでは、野外における植物の環境応答機能を分子レベルで解明し、それを実用レベルの技術などに発展させる上での課題と、これら研究分野における農業気象学の貢献について議論したい。（依頼講演のみで構成し、講演の公募は行わない予定）

【OS-E】 温室の高機能化・大規模化にかかわる課題解決

主催：園芸工学研究部会

オーガナイザー：後藤英司（千葉大学）

連絡先：後藤英司（goto@faculty.chiba-u.jp）

施設園芸温室では、周年生産を目指す1 ha 以上の大規模施設や高度複合環境制御システムを備える例が増えている。しかし、大規模化に伴い難易度の上がる環境制御、周年生産や気候変動に対応する資材・装置、植物の生育モニタリング、ICT 利活用など、解決すべき課題が多数ある。本セッションではこれらの課題を精査し、海外を含めた研究開発動向を把握し、今後本分野の研究者・技術者が取り組むべきテーマを議論する。数件の依頼講演を予定しているが、一般講演も公募する。